

散 骨 山 行 報 告

山 田 昭 一

高橋さんの「俺が死んだら骨を山に撒いてくれ」という御遺志をうけて、生前故人が一番好きな山と言っておられた針ノ木岳に、その御遺志を果たす使命を負って行ってきました。少数だけど精鋭とは程遠い平均年齢66歳のロートル登山隊でしたが、いい天気といい仲間に恵まれ、無事にその任務を遂行することができて達成感のある充実した山行でした。

1. 日時

2014年9月14日(日)-15日(月)

2. メンバー

- | | | |
|----|----------|---|
| SL | 上島康嗣(61) | 前夜単身で大阪を出発して夜を徹してスポーツカーをぶっ飛ばして駆けつけてくれました。最年少で貴重な精鋭。靴底のはがれた運動靴で軽快に歩きまわっていました。 |
| | 吉永行夫(73) | 最年長ながら5人中最強。歩きのスピードは最速。この翌週にも後立山縦走を計画・実行した筋金入りの現役アルピニスト。恐れ入りました。 |
| | 吉田隆三(66) | 小屋泊まりの4人を尻目に一人快適な幕営山行。重い荷物をものともせず、終始ヘルメット着用の模範的安全第一中高年登山者。散骨の翌日は4人と分かれて単独で鹿島槍まで縦走。 |
| | 小林俊人(65) | 半月板や内臓疾患で入退院を繰り返し、直前の山行でも足首捻挫してそのきずが癒えきらないなど数々の困難をかかえながら、行ける所までといいつつ最後まで行動を共にすることができました。下山時にはたびたび足の痙攣で苦しそうでしたが、根性で克服です。御立派。 |
| L | 山田昭一(64) | 高橋さんは、山の先輩としてだけでなく、一時期の職場のボスでもあり、また私ども夫婦の仲人も務めていただき、この散骨の任務は何としても我が手で果たさねばならんと誰よりも意気込んで臨みました。 |

以上の5名のほか、当初2名の参加予定者がありました。斎藤清雄さんは体調不十分とのことで、途中散骨隊に鞍替え、高橋さんの甥御さんで最近よくOGACの山行に参加している高橋浩史郎さんは直前の海外出張で体調を壊して不参加となりました。

3. 行動記録

前日の「偲ぶ会」の酒が抜けきらない早朝5時半にホテルを出発。上島君は約束通り夜中の3時にホテルについて、シュラフで仮眠しているところをホテルの従業員に不審がられたか気を遣われたかホテルの従業員に「大丈夫ですか？」と起こされたとか。早朝なのでこっそり出発と思っていたところ、有志の方のお見送りを戴きました。記念撮影もして戴いて。

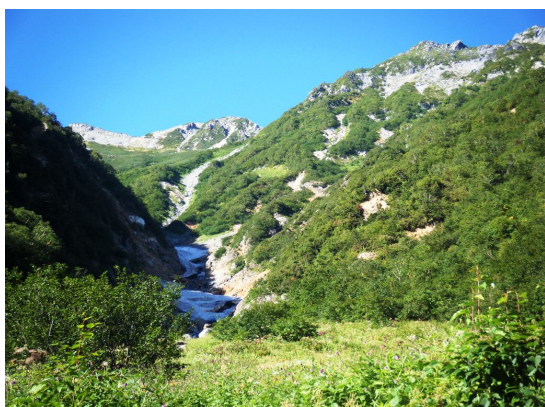
約15分で扇沢に到着。6時前というのに駐車場はほぼ満車状態。置けるかなと心配しながら進むと係員の誘導で無料駐車場所に。そこから登山口まで約10分。入山届をポストに入れて出発。稜線は朝日をうけて輝いており前途を祝ってくれている。中空には下弦の月も見守ってくれている。



樹林帯の登山道を、途中何度か若者パーティーに道を譲りながらゆっくり着実に歩く。思いがけなくひょこりと大沢小屋に出る。登山地図で1時間半とあるのに20分も早い。皆さん快調。

小屋から更に暫く樹林帯を行くとやがて視界が開けて前方に雪渓の残る針ノ木の谷が広がる。雪渓は痩せて通行危険とのことで、登山ルートは右岸、左岸の巻き道につけられたルートを休み休みゆっくり登る。

通称“ノド”と呼ばれる狭まった雪渓の下でコーヒブレイク。上島君の持ってきたUCCパックコーヒーが旨い。ガソリンコンロの燃料が途中でなくなり、吉永さんのガスコンロが見事にバックアップ。チームワークのよさを発揮。



ノドと左岸巻き道

ノドは雪渓の上に夏期ルートを示す紅ガラが見えていたが、今は通行止めロープが張られて通れない。左岸を大きく巻いていく。一番の難所(というほどでもないが)で、鎖場が何箇所か続く。小一時間で“最後の水場”。念のため夫々のボトルに水を補給。そこからは左岸の急な斜面をジグザグに登ると針ノ木峠の道標が次第に近づいてくるのが分かり、一時間足らずで峠の針ノ木小屋に到着。大沢小屋から正味歩行時間2時間45分。地図では3時間半。途中合計1時間の休憩を含めてほぼ地図通りの時間。上出来の頑張りでした。

峠は思いのほか大賑わい。さすが登山の十字路の要所だけのことはありました。この峠を戦国武将の佐々成政が厳冬期に越えたとは信じがたい歴史的出来事。ここで昼食。上島君は前日コンビニで買ったおにぎりを車に置き忘れ。あはは。みんなで分け合い。

吉田君はテント設営、4人は小屋にチェックイン。小屋は満員。布団2枚で3人の割り当て。

いよいよ所期の任務を達成すべく針ノ木岳の山頂へ向かう。比較的なだらかな登りが続く。1時間弱で山頂に



峠から山頂へ

到着。広い山頂で人も多く、こっそり散骨というのはちょっと憚られる状況。しばらく景色を眺めたり写真を撮ったりと

時間を過ごす。時折雲から顔を出す黒部湖、剣岳、立山、スバリ岳、後立山連峰などの景色を楽しんだ。暫くして人が少なくなり、頂上広場の三角点のある小山の裏側に人目に目立たぬようにつつましくみんなですこしずつ散骨。吉田君は殊勝にも数珠を持ってきていて合掌。みんな無事に任務を果たせて大満足。





山頂は思ったより遠い。走れそうなんだっ広いならかな山稜を行くと山頂に。針ノ木岳と打って変わって人影のない静かな山。人気度の差か。時間帯の違いもあるでしょうが。蓮華岳から針ノ木岳の山容が美しい。

小屋の夕食は人数が多いため入替え2部制。我々は早番。幕営の吉田君も夕食は一緒に。ビールや小林君持参のワインなどで宴会気分が盛り上がっていたら、次の番の食事準備が始まって追い出されるように閉宴となりました。まだ6時で外は明るい。けど、することもないしまわりの人達も皆さん就寝体制なのでならって寝ることに。あすは下山するだけなので5時に起床ということにして、即ち11時間睡眠ということで、そんなに寝られるかなと思いながら横になった。小屋の暖房と羽毛掛け布団のおかげで暑いくらい。防寒対策の羽毛服は活躍しませんでした。

夜は、何度か目をさましてトイレに行ったりすることはあったが結構よく寝て、5時前の吉永さんの



ノドの下から爺ヶ岳を望む

「ぼちぼち起きよか」の声に起こされました。10時間ぐらい寝てたのでしょうか。まわりの人たちも起きだしていました。朝食は、差し入れのお菓子などが沢山残っていたので下山途中の水場で取ることにして、小屋の朝食は割愛。外に出ると朝焼けの富士山など幻想的な景色。鹿島槍縦走に向かう吉田君と分かれて下山。ノドを過ぎたあたりの水場でゆっくり朝食。高橋さんが爺ヶ岳を背景にかっこよく映っていた写真の撮影現場はこのあたりかなどと想いを馳せながら、ひたすらのんびりと下りました。

下山後、大町市民温泉「上原[うわっぱら]」の湯でさっぱり汗を流し、すぐ近くの高橋邸に報告に伺った。御子息(次男知征さん)夫妻もおられ、散骨の状況や懐かしい昔話などに花をさかせ、1時間ほどでおいとまして今回の散骨の任務を終えました。

とても楽しい山行でしたが、強いて言えば針ノ木雪渓といいながら季節遅れで雪渓の上を歩くことは叶いませんでした。できれば来年もう少し早い時期に皆さんで雪渓を歩いて追悼山行したいものです。

4. コースタイム

9月14日

06:05 登山口発
07:20 大沢小屋(～07:30)
11:10 針ノ木峠(途中4回60分休憩)
12:20 針ノ木峠発
13:10 針ノ木岳山頂(～13:40)
14:30 針ノ木峠(～14:40)
15:35 蓮華岳山頂(～15:40)
16:15 針ノ木峠

9月15日

05:35 針ノ木峠発
06:40 ノド下(朝食～07:10)
08:10 大沢小屋(～08:15)
09:25 登山口着